

令和7年  
2025年

1月9日  
木曜日

第11629号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6か月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1  
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



京都市青年会が新年会を開催……P6

CONTENTS

- ▶【今年の豚価を占う】昨年は前年超えの高値傾向、今年の年間平均予測は632円……P2～3
- ▶[豚肉調製品輸入通関・11月]シーズンなど合計8708tで減少……P4
- ▶メープルリーフフーズ社「大麦仕上豚」が7年連続でITI「三ツ星」獲得、最短7年でのダイヤモンド・テイスト賞は快挙……P5
- ▶[畜産物卸売価格・12月]和牛去勢A4価格は前年同期比47円高……P5
- ▶吉野家「あすトククーポンキャンペーン」開始…P5
- ▶京都市青年会が新年会、年末商戦の情報交換などを行う……P6
- ▶ランピースキン病の防疫対策のための提言示す一農水省……P6
- ▶米国食生活指針諮問委員会、食肉および卵の摂取量を減らすよう提言……P6～7
- ▶【関東の輸入豚肉現物相場】C、Fともに中部位に引き合い……P8
- ▶【関東の国産豚肉現物相場】Cは引き続きバラなど堅調、Fはやや緩む……P8
- ▶すき家「黒だれ白髪ねぎ牛丼」今年も登場…P8
- ▶[資料]畜産物卸売価格の推移……P9
- ▶[東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]8日……P10
- ▶[各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]8日…P11

## 注目のヘッドライン

【今年の豚価を占う】昨年は前年超えの高値傾向、今年の年間平均予測は632円

…詳細はP2～3

京都市青年会が新年会、年末商戦の情報交換などを行う

…詳細はP6

国内で唯一、最大級の食肉総合見本市

第49回

## 2025 食肉産業展

2025 Japan Meat Industry Fair 49th.

食肉産業展 HP

ご来場をお待ちしております!

食肉産業展HPはコチラ ▶ <https://www.shokuniku-sangyoten.jp>

開催テーマ

## 肉のサステナビリティとイノベーション

会期 ● 2025年 3月11日(火) ⇒ 14日(金)

会場 ● 東京ビッグサイト 東7ホール

主催 ● 食肉産業展実行委員会  
後援 ● 農林水産省、厚生労働省ほか

同時開催

アジア最大級の食品・飲料総合展示会

The 50th International Food and Beverage Exhibition

## FOODEX JAPAN 2025

食肉産業展東京事務局 ☎03-3663-2011

## 【今年の豚価を占う】 昨年は前年超えの高値傾向、今年の年間平均予測は 632 円

長引く円安、それによる飼料やエネルギー価格の高止まり、社会情勢の動きに伴う輸入の遅れ一。さまざまな要因が生産、消費に影響を及ぼす中、2024年の豚肉相場は前年を下回る月もあったが、夏場をはじめ、基本的には前年超えの高値傾向が継続した。

年明けからの暖冬で豚の重量が増えやすかったり、一方で7～8月は酷暑で出荷頭数が伸びにくかったりと、気温も豚価を変動させた。さらに、5月末以降は豚熱も相場に響き、多くの月は前年を超える高い価格での推移となった。

東京食肉市場の相場(「上」、税込み)を月ごとに振り返ると、昨年1月は491円(前年同月比39円安)と3年ぶりに500円を割った。年明けから暖冬が続ぎ、出荷頭数は前年を上回り、発育も良く、生産量が多かった。高い気温が鍋物需要の伸び悩みを招くという側面もあった。

2月は594円(6円高)だった。通常は需要が低迷しやすい時期だが、前月比では100円を超える上昇をみせ、前年比でも高値。3月もそれほど生産量が減らず、相場は549円(25円安)と前年に比べて少し低下したが、平年比では高値だった。

4月は後半に入ると出荷頭数が減り始め、価格が上昇傾向になり、613円(51円高)。5月末には栃木県と岩手県で豚熱が発生。豚価は一気に高騰し、翌月以降にも影響は続いた。5月は714円(69円高)、6月は753円(53円高)と高い水準に。

7月に入ると気温上昇に伴って出荷頭数が減り、疾病や輸入の停滞もあったため、900円を超える日も。7月は831円(150円高)という大幅な上昇をみせ、酷暑が続く8月も764円(50円高)と高値を維持した。

9月は665円(34円安)。前月まで5万頭台あるいはそれ未満になることもあった全国と畜頭数は、6万頭台に戻り始めた。さらに円安が一時的に落ち着き、輸入品に需要がやや傾いた。

10月は、前年のと畜頭数が月平均7万頭に近かったのに対し、今年は6万頭台半ばにとどまり、相場は619円(61円高)で前年超え。11月は570円(51円高)、12月は637円(86円高)

食肉通信では24年11月下旬から12月中旬にかけて、「2025年の豚価アンケート」を実施した。

アンケートは記述形式で、25年の各月予想価格とその価格を決める要因、瞬間最高値・瞬間最安値とその時期、出荷動向、飼養動向、消費動向、輸入動向、そのほか社会情勢を踏まえた25年の豚肉輸入量や国産相場への影響、国内外での疾病、近年注目が集まるSDGsやアニマルウェルフェアについて、食肉業界の各関係者の意見を募った。

回答は計93通で、業種別でみると、生産関係(以下、生産)が15通、市場・センター関係(市場)が49通、加工・卸が15通、流通・小売・商社(流通)が14通という内訳だった。

このアンケートでの年間の全体平均予想は「632円」と、前年実績(650円)を下回った。

業種別の年間平均予想では生産が「632円」、市場が「624円」、卸が「649円」、流通も「649円」。最も高く予想しているのが卸および流通、最も低いのは市場だった。その差は25円と、業種ごとの差が少し開いている。

25年の各月予想(全体平均)と前年実績との対比は次のとおり(カッコ内は前年実績との価格差)

1月 523円(32円高)、2月 576円(18円安)、3月 561円(12円高)、4月 600円(13円安)、5月 680円(34円安)、6月 722円(31円安)、7月 766円(65円安)、8月 735円(29円安)、9月 666円(1円高)、10月 608円(11円安)、11月 563円(7円安)、12月 583円(54円安)

相場推移とその決定要因に関する業種別の主な回答は次のとおり。

「前年の酷暑で子豚の産子数が減ったと思われる、1～3月はやや高めで推移するのではないか」「EUなどの枝肉価格高や円安の影響で輸入量はある程度抑えられ、国産豚肉の相場は堅調に推移する」「夏場の価格高騰、年明けや秋の堅調は今年も変わらない(以上、生産)

「冬場は出荷頭数の増加と消費の減少により、相場は冷え込む」「猛暑による出荷頭数の減少がみられる4、5月～9、10月にかけて相場が上昇する」

「酷暑のため、豚の発育、種付けに苦しむ可能性が高く、全国と畜頭数、上場頭数は減少する」「円安による輸入豚肉のコスト増大と、それに伴う枝肉相場の底上げが起こる」「24年ほどではないにせよ、平年よりは高値で推移する」「円安によって輸入豚肉と国産豚肉の価格差は縮まり、安全・安心なイメージが強い国産豚肉の需要は高まっていき、結果として豚肉相場にも影響を及ぼす」(市場)

「国産豚肉の生産量が著しく増える要因は見当たらず、出荷頭数に大きな伸びはないだろう。そのため、需要が供給を上回る構図となり、引き続き高値水準が続いていくことになる」

「全国的に、中でも関東近隣は疾病や離農などで出荷頭数の減少が予測され、周辺の食肉市場の上場頭数が不安定になり、高値相場が形成される」「買参人が相場を調整する可能性が考えられる」(卸)

「夏場は高値が継続する。前年は1月に安値となったが、今年はそれほど下がらないと考える」「米国のインフレの懸念があり、円安による飼料価格の高騰が維持されることで生産コストは高止まりする」「米国産牛肉の高止まりによって豚肉の需要は増加傾向となるが、消費は頭打ちとなる」(流通)

農水省の肉豚出荷予測(24年12月23日公表)では、25年4月までの予測がすでに発表されている。

それによると、25年1月の出荷頭数は141万4千頭と前年同月と同等の予測。2月は134万4千頭(前年同月比2・2%減)と前年を下回るとみられる。

3月は145万7千頭(6・3%増)と前年を超える予想。1～3月合計では、421万5千頭(1・3%増)で増加となっている。

4月は140万3千頭(0・4%減)、5月は134万2千頭(1・3%減)と減少する見込みだ。過去5年平均比でみると、2月と5月は1%ほどの増加が見込まれるが、1、3、4月は平年並みと予想されている。

今回のアンケートにおける各月の予想では、1月の予想平均値は523円と前年実績を32円上回った。今年は多くの月が前年比で安値となると予想されているが、前年の酷暑の影響が残り、1月は子豚の産子数減退による高値の推移を予測する声も上がっている。

生産と市場、卸、流通と、いずれの業種でも同月が年間最安値を記録するとの予想が最も多い。

2月は576円で前年実績よりも18円安く、3月は561円(前年実績比12円高)で前年を上回るとの予測だ。4月は600円(13円安)で安値。早ければこの時期から暑熱の影響が出始めるとの意見もある。

5月は大きく水準が上がるが、前年はこの時点で700円の大台に乗っていたのに対し、680円(34円安)と600円台にとどまるか。予想によると、ゴールデンウィークを境に本格的に値を上げる可能性がある。

6月は722円(31円安)で前年割れ。頭数不足が目立つ時期に入り、相場は同月末が年間のピークとみる向きもある。

7月は766円(65円安)と前年比では大幅な低下となるが、平年と比べれば高値相場といえる。いずれの業種でも、この時期にピークを迎えるという予測だ。加工・卸の予想平均値では800円オーバーとなっている。

8月は735円(29円安)。前月比ではやや落ち着くが、8月上旬に年間最大値を記録するとの予想もある。9月は666円(1円高)でおおむね前年並みとなる予想が立てられている。前年同様、夏場の猛暑の影響は同月でも多少残るとみられる。

10月になると、高騰していた相場はようやく落ち着いてくるだろう。608円(11円安)で600円台をキープするとの声が多いが、同月中旬や下旬で年間最安値となる予想もある。

1月に次ぐ安値予想となっているのが11月。相場は563円(7円安)と予想され、年間最安値とみる見解も少なくない。最安値は1月中旬を中心とする冬季の予測が多いものの、10～11月との意見もみられる。

12月は年末に向けて再び需要を高めたいところだが、583円と600円台には届かないか。

以上のように、推移の波は昨年から大きな変化はなさそうだが、冬場以外は価格がやや下がると想定される。7月前後には高値相場となることが予想されるが、前年に比べればやや落ち着くとみられる。

## 【豚肉調製品輸入通関・11月】 シーズンドなど合計 8708 t で減少

財務省が公表した11月分の貿易統計によると、豚肉調製品の輸入通関量は、カタを原料としたシーズンドポークを含む1602-42-090は、合計8708t(前年同月比10・5%減)と前年同月から減少した。前月から1209t減少した。国別にみると、米国が4952t(6・2%減)、カナダは1195t(8・8%増)となったほか、メキシコは572t(16・0%減)、デンマークは434t(68・0%減)と減少した。

カタ・モモ以外を原料とした1602-49-290の合計は2377t(23・9%減)となった。国別では、米国が1293t(27・6%減)、中国が606t(26・0%減)、デンマークが269t(10・2%減)、タイが92t(25・7%減)となった。

また、表記以外のモモ肉およびこれを分割した1602-41-090は、米国361t、タイ90t、中国81tなど、6カ国から合計562t輸入された。

1602.42-090 カタを原料としたもの

単位:トン

	カナダ	アメリカ	チリ	メキシコ	オランダ	デンマーク	その他計	合計
2023年11月	1,098	5,280	864	681	0	1,359	443	9,725
12月	853	6,229	1,032	1,076	0	1,068	429	10,688
2023年累計	14,418	74,098	8,124	10,415	3,619	14,800	8,578	134,052
前年比	137.9%	86.8%	101.9%	117.0%	42.8%	94.0%	97.5%	92.0%
2024年1月	1,074	5,197	768	593	19	805	549	9,006
2月	998	3,972	744	440	0	732	534	7,420
3月	1,440	3,206	1,224	550	24	1,125	407	7,975
4月	1,292	9,815	863	1,187	0	806	632	14,595
5月	1,637	5,571	864	859	0	928	824	10,682
6月	1,236	6,600	946	571	0	765	295	10,413
7月	1,410	6,549	672	1,231	0	662	207	11,020
8月	1,218	5,272	1,152	988	0	781	207	10,097
9月	1,143	6,001	648	660	0	735	469	9,656
10月	973	5,700	1,104	836	0	809	288	9,917
11月	1,195	4,952	864	572	0	434	691	8,708
前年同月比	108.8%	93.8%	100.0%	84.0%	-	32.0%	156.1%	89.5%
2024年累計	13,615	62,834	9,849	8,487	43	8,582	5,104	109,489
前年同期比	100.4%	92.6%	138.9%	90.9%	1.2%	62.5%	62.6%	88.8%

1602.49-290 カタ・モモ以外を原料としたもの、混合を含む

単位:トン

	中国	デンマーク	アメリカ	タイ	オランダ	メキシコ	その他計	合計
2023年11月	819	300	1,787	124	47	44	5	3,126
12月	961	246	1,937	100	31	88	10	3,373
2023年累計	8,597	3,180	20,614	1,290	1,149	1,001	230	36,061
前年比	99.8%	108.4%	88.8%	67.6%	79.3%	110.4%	122.5%	92.0%
2024年1月	701	427	2,313	82	0	110	17	3,649
2月	605	157	1,628	95	0	42	14	2,541
3月	601	320	2,378	134	0	88	10	3,532
4月	938	393	1,587	99	16	132	21	3,185
5月	710	316	3,146	138	47	43	24	4,423
6月	779	657	2,417	79	0	76	5	4,012
7月	923	146	1,537	132	0	98	7	2,844
8月	522	487	1,727	94	0	66	24	2,920
9月	580	473	1,205	102	14	108	19	2,502
10月	870	136	1,733	159	14	88	29	3,027
11月	606	269	1,293	92	31	44	41	2,377
前年同月比	74.0%	89.8%	72.4%	74.3%	66.7%	99.8%	858.8%	76.1%
2024年累計	7,834	3,783	20,964	1,204	122	895	211	35,013
前年同期比	102.6%	128.9%	112.2%	101.1%	10.9%	98.0%	96.2%	107.1%

## メープルリーフフーズ社「大麦仕上豚」が7年連続でITI「三ツ星」獲得 最短7年でのダイヤモンド・テイスト賞は快挙

メープルリーフフーズ社(カナダ)のレスブリッジ工場で生産する「大麦仕上豚」がこの1月にドバイで開催されたITI2025において、最上位評価となる「三ツ星」を受賞した。

審査は製品を特定するブランド情報やパッケージなどを全て取り除き、200人以上の現役シェフ・ソムリエがブラインド試食テストによって採点。90点以上を獲得した製品のみが「三ツ星」となる狭き門の中、「大麦仕上豚」は今回で7年連続受賞の快挙となり、最短でダイヤモンド・テイスト賞を受賞したことになる。

今回の受賞について、メープルリーフフーズ社は「4年ほど前から始まった飼料コスト高・肥育コスト高という環境の中で、あえて私たちは飼料のダウングレード化・母豚/種豚の見直しという流れを追わな

かった。コストアップにつながったとしても、愚直においしい豚肉生産を求めていったことが、この7年連続三ツ星受賞につながっていったと考えている。すべては、おいしいと言っただけの消費者のために、これからも自給自足農家との取り組み、大麦・小麦中心の飼料、そして肉質を重視する皮剥ぎ方式を継続していくつもりだ」と意気込みを語った。同社は今後も引き続き、北米では珍しい「かわはぎポーク」の味・肉質の優位性をアピールしていく方針だ。



## 【畜産物卸売価格・12月】和牛去勢A4価格は前年同期比47円高

農水省食肉鶏卵課がまとめた12月の畜産物卸売価格の推移(9面参照)によると、豚の全国と畜頭数(速報値)は143万5500頭(前年同月比1・8%減)となった。豚肉「極上」「上」の価格は東京が638円(85円高)、大阪が536円(前年同月並み)。成牛のと畜頭数は9万6330頭(1・2%減)となり、東京では和牛去勢A4価格が2463円(47円高)、交雑牛B3が1645円(3円高)となった。

【豚】全国の1日当たりの平均と畜頭数は、上旬が6万1463頭(16・8%増)、中旬が6万5700頭(0・6%減)、下旬が7万500頭(28・1%増)。東京の

価格は上旬が670円(53円高)、中旬が670円(122円高)、下旬が571円(71円高)で、大阪は上旬が573円(4円高)、中旬が532円(34円安)、下旬が487円(28円高)となった。

【牛】全国の1日当たりの平均と畜頭数は、上旬が4144頭(8・4%増)、中旬が4575頭(0・3%減)、下旬が1828頭(8・4%増)。東京の和牛去勢A4価格は上旬が2439円(3円高)、中旬が2531円(123円高)、下旬が2336円(57円安)となり、交雑牛去勢B3価格は上旬が1649円(40円高)、中旬が1735円(32円高)、下旬が1511円(87円安)となった。

## 吉野家「あすトククーポンキャンペーン」開始

(株)吉野家(東京都中央区、河村泰貴社長)は、8日～2月27日、全国の吉野家で夜食べた翌日の食事が100円オフとなる「あすトククーポンキャンペーン」を開始した。17～23時の間に店内またはテイクアウトで税込み300円以上の会計で、翌日の食事が税込み

100円引きとなるレシートクーポンを発行する。全てのメニューが100円引きの対象となるキャンペーン。なお、割引対象商品には、季節限定商品の「牛すき鍋膳」「牛カレー鍋膳」も含まれている。

## 京都市青年会が新年会、年末商戦の情報交換などを行う

京都市食肉青年会(大橋進一朗会長)は6日、京都市上京区の萬重で新年会を開催した。冒頭、大橋会長は「昨年は大きな問題なく各事業を遂行することができた。今年は巳年(きのとみ)で乙巳。新しく生まれてくる、将来や未来があるという意味になる。へびは脱皮を繰り返し成長していく生き物。私たちも新しい経験や、ときには失敗を通じて自身の皮を破りさらに成長していきたいようにしたい。また、困難な状況にあっても紆余曲折しながら、根気よく進む忍耐力、周囲との協力や調和を大切にするという意味もある。私は今年36歳の年男になる。へびのように柔軟性を持って物事に対応し、皆さまのご協力をいただきながらチームワークを大切に、会の事業を進めていきたい。来年には青年会設立70周年を迎える。諸先輩方が積み重ねてきた歴史を大切に、良い形で節目を迎えられるよう一丸となって頑張る」とあいさつ。

来賓では京都府食肉事業協同組合連合会会長、



京都府食肉業務用卸協同組合理事長も務める京都市食肉協同組合の吉岡浩人理事長、京都食肉買参事業協同組合の大西雷三理事長、京都食肉市場(株)の宮田典幸社長がそれぞれ祝辞。

来賓紹介に続いて安藤真宏氏が乾杯の音頭を取り懇親に移った。出席者が年末商戦の動向などについて情報交換を行う中、尾崎星二直前会長による中締め、大西英毅氏による万歳三唱で散会した。

## ランピースキン病の防疫対策のための提言示す一農水省

農水省はこのほど、ランピースキン病対策検討会を開催し、防疫対策のための提言を示した。

今回、国内で発生した同病ウイルスの暫定的な遺伝子解析では、近年、東アジアで流行しているウイルスと同じ系統に分類される株であると推定されるため、周辺国から何らかのルートでウイルスを保持した吸血昆虫が日本に運ばれた可能性が考えられる。そのため、今後も近隣国での同病の発生状況を注視しつつ、吸血昆虫などの侵入防止対策を強化するとともに、国内での発生に警戒する必要がある。

まん延防止対策としては、ワクチン接種を行うことが最も有効であり、発症牛の淘汰と合わせることで清浄化を早めることができるとしている。なお、ワクチンの接種に当たり、対象農場を同時に接種することが困難である場合には、発生農場および発生農場周囲の農場を優先し、①発生農場②発生農場からの移動牛が確認された農場③発生農場周辺3km以内の農場④発生農場周辺20km以内の農場(外側から内側へ)の順に接種を進める。

## 米国食生活指針諮問委員会、食肉および卵の摂取量を減らすよう提言

米国政府の諮問機関である米国食生活指針諮問委員会は2024年12月10日、米国保健福祉省(HHS)および米国農務省(USDA)に対して、科学報告書(Scientific Report of 2025 Dietary Guidelines Advisory Committee)を提出し

た。同科学報告書は、HHSおよびUSDAが5年ごとに改定している「米国人のための食生活指針」策定のために活用される。

「米国人の食生活指針」は、米国内の食事に関連する慢性疾患の予防と健康増進を目的とした推奨事

項を提供し、各個人にとって健康的な食事を選ぶ際の指針となるものであり、米国における栄養プログラムや学校給食などの栄養政策の基盤となるものである。指針の策定に当たっては、食生活諮問委員会への諮問・答申を経てHHSおよびUSDAが起草することとされている。

食生活諮問委員会からの科学報告書によれば、現状の米国の食事摂取量について検討した結果、生涯を通じて、野菜、果実、乳製品(大豆性の代替品を含む)、魚介類、ナッツ・種実類、大豆製品および全粒穀物の摂取量は現在の推奨摂取量を下回っている一方、精製穀物を含めた穀物およびタンパク質食品、特に食肉および卵の摂取量は推奨量以上となっているとされる。このため、生涯を通じてビタミンD、カルシウム、カリウムおよび食物繊維が不足し、ナトリウム、糖類および飽和脂肪酸が過剰な栄養素と指摘されている。

食生活諮問委員会では、栄養関連の慢性疾患の有病率について、人口統計学的な解析を行い、健康の公平性に焦点を絞りながら検証が行われた。これまで提出されてきた報告書の中では、初めて経済的地位、人種、民族、文化的背景の影響とそれぞれのライフステージを考慮するよう提言された。

また、健康的な米国の食事パターンとして、豆類の摂取量を増加させる一方で、でんぷん質の野菜、食肉および卵の摂取量を減少させることなどが提言された。なお、アルコール飲料については、男性は1日2杯以下、女性は1日1杯以下に抑えるという既存の基準を据え置いた。

さらに、スナック菓子、甘いシリアル、冷凍食品などの加工度の高い食品については、米国人の食生活の大部分を占めているとされており、委員会は、加工度の高い食品と肥満との関連性などを示す数十件の研究結果について検討したが、研究の質に懸念があるとし、勧告を行うには証拠が限定的過ぎると結論付けた。

畜産業界をはじめ多くの農業団体は、今回の科学報告書の内容について反対を表明している。北米食肉協会(NAMI)は、食生活に食肉を取り入れることで、報告書内で多くの米国人の摂取が不十分であると指摘されたタンパク質、鉄分、亜鉛、銅、ビタミンB6、ビタミンB12、カリウムの必要摂取量をより簡単に満たすことができるとしている。このため、食肉の消

費削減を勧告する同報告書に強く反対し、関係機関にその拒否を強く要請していくとしている。また、全米肉牛生産者・牛肉協会(NCBA)も、指針が策定されてから40年の間、牛肉の消費量は減少しているにもかかわらず、米国人の肥満や慢性疾患の罹患率<sup>りかん</sup>はかつてないほど高まっているとし、牛肉の摂取量を減らすよう助言する同報告書は女性、子供、青少年、高齢者など弱い立場にある人々を危険にさらすだろうと表明している。IDFA(国際乳食品協会)は、報告書で乳製品が野菜、果物、穀物などと並ぶ重要な栄養源として引き続き位置付けられていることを評価しつつ、乳脂肪が健康に良いものであるとする研究の大部分が反映されていないとして、不満を表明している。

今後、60日間のパブリックコメント期間を経るとともに、25年1月16日に公聴会が行われる予定である。その後、HHSおよびUSDAが起草作業を行い、25年末までに指針が公表される見込みとなっている。なお、「米国人のための食生活指針」の策定作業中に政権が交代することはまれであり、今後策定される指針について、民主党政権下で提出された科学報告書から方向性が大きく変わる可能性がある。特に次期共和党政権では、HHSの長官に内定しているロバート・F・ケネディ・Jr氏が加工度の高い加工食品の取り締まりを強化すると公言しているため、新たに摂取量に関する基準を設ける可能性がある。(農畜産業振興機構)

科学報告書で提案された品目ごとの摂取量目安  
(一日あたり 2,200 kcal摂取する成人の場合)

品目(単位)	摂取量(注1)
野菜(カップ/週(注2))	21.0
濃い緑色の野菜	2.0
赤・橙色の野菜	6.0
まめ類	3.0(+1.0)
でんぷん質の野菜	5.0(-1.0)
その他の野菜	5.0
果物(カップ/週)	14.0
穀物(オンス/週(注3))	49.0
全粒穀物	24.5
精製穀物	24.5
乳製品(大豆性の代替品含む)(カップ/週)	21.0
たんぱく質食品(オンス/週)	38.5(-3.5)
食肉および卵	24.5(-3.5)
魚介類	9.0
ナッツ・種実類および大豆製品	5.0
油脂(g/週)	203.0

資料：米国食生活指針諮問委員会  
注1：カッコ内の数値は現行(2020年)の指針からの変化量  
注2：1カップは約236.6 ml、葉物の場合は2倍摂取する必要がある  
注3：1オンスは約28.35 g

## 【関東の輸入豚肉現物相場】C、Fともに中部位に引き合い

【フローズン】最大9連休となった年末年始。国内の観光地などにも人が多く、飲食需要もそれなりに盛り上がりを見せたようだ。年明け以降、北日本などは強い寒波となっており、関東でも今後ますます寒さが厳しくなりそう。鍋物需要の増加も見込まれ、量販店などからの解冻スライス商材の引き合いは続きそうだ。一時期に比べて在庫水準も低くなってきている。

【チルド】入船スケジュールの乱れの影響も散見されるが、全体的な荷動きはそれほど強いわけではない。ただ、ロインやベリーなどといった中部位を中心に引き合いがあり、余剰感はみられない。米国ではまもなくトランプ大統領

が就任するが、為替の動向などにも影響が出そうだ。

### 【輸入豚肉現物相場】(関東仲間冷蔵庫渡し)

キロ/円(税抜き)

	輸入元	部位	相場	気配
フローズン	米国産	クッションミート	730中心	→
		テンダーロイン	850中心	→
	カナダ産	ショート・ボックス	780中心	→
		ウデ	750中心	→
		モモ	750中心	→
	デンマーク産	ベリー	900中心	→
		カラー	880中心	→
		ロインMM	860中心	→
	フランス産	テンダーロイン	860中心	→
		シートベリー	900中心	→
チルド	米国産	カタローズ	880中心	→
		ロイン(FLON)	780中心	→
		CCロイン	780中心	→
		ヒレ(船便)	1,050中心	→
		山付ベリー	1,200中心	→
	カナダ産	ボックス	820中心	→
		テンダーロイン	1,100中心	→
		ベリー	1,150中心	→

## 【関東の国産豚肉現物相場】Cは引き続きバラなど堅調、Fはやや緩む

今週初競りとなった枝肉相場だが、休みが長かった影響から、補充手当てなども進んでおり、例年に比べても高値で推移している。今週末にも3連休を控え、全体的に荷動きは悪くない。引き続きバラやカタローズなどの引き合いは強い。また、休み前に荷動きが鈍っていたウデやモモといったアイテムについても引き合いが出ており、余剰感はみられない。

フローズンはバラやカタローズなどの中部位を中心に昨年末は需給が逼迫し

ていたが、引き合いは落ち着いてきた。スソ物についても需要が落ちていた年末にチルドからの凍結回しを行うケースもみられ、一時期に比べて全体的に需給は緩んでいる。

### 【関東の国産豚カット肉相場】

円/キロ

生鮮物		冷凍物	
部位	相場	部位	相場
カタローズ	1,050~1,150	カタローズ	880~930
ウデ	700~750	ウデ	650~700
ローズ	980~1,050	ローズ	880~930
バラ	1,080~1,180	バラ	980~1,030
モモ	720~760	モモ	670~720
ヒレ	1,000~1,080	ヒレ	880~930

## すき家「黒だれ白髪ねぎ牛丼」今年も登場

(株)すき家(東京都港区、平田智有社長)が展開する牛丼チェーン店「すき家」は10日から「黒だれ白髪ねぎ牛丼」(税込み650円)を販売する。

同商品は、シャキシャキ食感の白髪ねぎに同店特製“黒マー油”をかけた冬の人気商品で、焦がしにんにくのコクと芳醇なうまみが特長。風味豊かな白髪ねぎ

と一緒に、にんにくの濃厚な味わいを楽しめる。また、ほくほくのフライドにんにくを合わせた「にんにく黒だれ白髪ねぎ牛丼」(720円)も合わせて販売。にんにくがダブルでガツンと効いた味わいで、ごはんが進むこと間違いなしの一品となっている。

### 畜産物卸売価格の推移

(令和6年12月)  
単位：頭数(頭)、価格(円/kg)

	豚肉 極上・上					牛肉			全国と畜 頭数		鶏 東	卵 京	鶏 東	肉 京
	東京		大阪		加重 平均 価格	東京(加重平均価格)			豚	成牛	(M)	もも	むね	
	価格	頭数	価格	頭数		和牛 去勢 A 4	交雑 去勢 B 3	乳用種 去勢 B 2						
5年 11月	520	7,188	543	960	523	2,235	1,514	791	1,483,301	108,833	254	690	390	
5年 12月	553	7,445	536	1,060	551	2,416	1,642	795	1,461,938	97,453	247	711	393	
上 旬	617	2,220	569	298	612	2,436	1,609	651	52,613	3,823	250	703	393	
中 旬	548	2,811	566	454	551	2,408	1,703	676	66,100	4,591	247	709	392	
下 旬	500	2,414	459	308	496	2,393	1,598	820	55,050	1,687	245	723	395	
6年 11月	571	7,238	585	597	572	2,349	1,573	1,119	1,409,881	109,509	281	707	406	
6年 12月	638	7,155	536	941	627	2,463	1,645	1,217	1,435,500	96,330	290	746	419	
上 旬	670	2,232	573	356	657	2,439	1,649	1,096	61,463	4,144	289	736	417	
中 旬	670	2,626	532	346	654	2,531	1,735	1,145	65,700	4,575	290	747	418	
下 旬	571	2,297	487	239	563	2,336	1,511	1,276	70,500	1,828	290	760	422	
1日(日)									-	120				
2日(月)	634	279	598	60	628	2,403	1,563	-	67,500	5,760	285	728	415	
3日(火)	685	332	559	38	672	2,410	1,585	-	70,000	5,410	290	731	414	
4日(水)	683	275	555	40	667	2,417	1,667	1,072	68,300	5,590	290	-	-	
5日(木)	659	297	596	28	654	2,430	1,678	-	69,800	5,290	290	728	417	
6日(金)	664	429	574	41	656	2,451	1,661	1,116	68,200	5,770	290	738	418	
7日(土)									6,600	2,080	-	741	420	
8日(日)									-	100				
9日(月)	672	261	564	96	643	2,454	1,657	-	70,100	5,610	290	740	416	
10日(火)	690	359	570	53	675	2,485	1,675	-	71,200	5,710	290	745	422	
11日(水)	672	238	513	45	647	2,511	1,757	-	70,900	5,820	290	-	-	
12日(木)	652	305	591	26	647	2,550	1,747	1,137	71,500	5,380	290	738	414	
13日(金)	643	440	532	20	638	2,520	1,769	-	70,700	5,660	290	744	417	
14日(土)	-	-	-	-	-	2,479	1,681	-	12,100	2,570	-	745	417	
15日(日)									-	100				
16日(月)	661	292	546	109	630	2,502	1,757	-	71,600	5,630	290	750	416	
17日(火)	695	294	529	52	670	2,534	1,783	-	72,900	5,520	290	752	423	
18日(水)	722	242	511	10	714	2,581	1,804	1,174	73,500	5,570	290	-	-	
19日(木)	673	365	511	47	655	2,575	1,740	1,124	74,500	4,720	290	748	420	
20日(金)	667	450	509	37	655	2,517	1,642	-	73,600	4,780	290	749	421	
21日(土)	651	257	-	-	651	-	-	-	-	-	-	755	422	
22日(日)														
23日(月)	643	378	509	129	609	2,454	1,635	1,192	77,700	3,900	290	757	419	
24日(火)	629	402	469	44	613	2,426	1,558	-	79,500	2,920	290	764	424	
25日(水)	555	342	459	59	541	2,361	1,514	1,323	76,600	1,750	290	-	-	
26日(木)	518	287	432	7	516	2,245	1,429	-	72,200	260	290	759	420	
27日(金)	496	361	-	-	496	2,249	1,467	-	46,500	310	290	766	424	
28日(土)	488	270	-	-	488	2,258	1,515	-	-	-	-	-	-	
29日(日)														
30日(月)														
31日(火)														

注1) 当月の価格及び頭数は速報値  
 注2) 牛肉の価格は、生体及び搬入の加重平均(全て瑕疵含む)  
 注3) 「-」は取引無し

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 1月8日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 111頭	高値	3,882	2,641	2,200	-	-
		安値	2,160	2,052	1,890	-	-
		平均	2,551	2,306	2,060	1,514	-
		頭数	67	34	9	1	-
	雌 B -頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 A 139頭	高値	3,161	2,449	2,216	-	-
		安値	2,263	2,096	2,106	-	-
		平均	2,574	2,310	2,166	-	-
		頭数	101	34	4	-	-
去 B 2頭	高値	-	-	-	1,407	-	
	安値	-	-	-	1,404	-	
	平均	-	-	-	1,406	-	
	頭数	-	-	-	2	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 19頭	平均	-	1,716	1,557	1,463	-
		頭数	-	6	8	5	-
	雌 C 4頭	平均	-	-	1,462	1,373	-
		頭数	-	-	2	2	-
去 B 18頭	平均	-	1,699	1,624	1,489	-	
	頭数	-	4	8	6	-	
去 C -頭	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	403 398	1,129 940	- 215.5	(競り)	(相対)	80

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	-	1,855	1,536	1,259	-
	B	-	1,468	1,396	1,143	-
和 去	A	2,425	2,270	2,160	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,027	846
	C	-	-	-	-	749
乳 去	B	-	-	-	1,124	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,634	1,620	1,190	701
	C	-	-	1,423	1,263	-
交 去	B	-	1,677	1,571	1,327	-
	C	-	-	1,444	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	701	811	725	724	669
	安値	688	648	648	410	400
	平均	695	704	683	655	472
	頭数	( 3)	( 274)	( 384)	( 161)	( 118)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 1月8日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,562	2,268	1,990	-	-
(頭数)	( 8)	( 6)	( 2)	( -)	( -)
B	-	2,034	1,783	-	-
(頭数)	( -)	( 1)	( 2)	( -)	( -)
和 去 A	2,625	2,275	1,937	-	-
(頭数)	( 25)	( 11)	( 2)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	1,905	1,813	1,654	-	-
C	-	-	-	1,523	-
交雑去 B	-	1,725	1,676	1,569	-
C	-	1,719	1,675	1,545	-
豚	-	509	467	401	476

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	1月8日	1月7日	(1月累計)
豚	72,100	71,800	216,300
成牛計	4,770	4,790	14,270
和牛雌	1,220	1,030	3,220
和牛去勢	1,320	1,260	3,970
乳牛雌	630	860	1,920
乳牛去勢	560	600	1,750
交雑雌	490	470	1,580
交雑去	530	570	1,810

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 1月8日

	1,494円	(前日 1,547円)
東京		
大阪	1,651円	(前日 1,650円)

[豚・全農建値] 1月8日

上	中	取引頭数	市況
686円	667円	1,405頭	急伸

と畜 売買	牛 125頭 牛 104頭	豚 83頭 豚 73頭	牛概況 豚概況	もちあい 急落
----------	------------------	----------------	------------	------------

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 1月8日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	648 (648)	- (-)	6,243	-	もちあい
仙台 [中]	637 (637)	618 (600)	560	114	もちあい
宇都宮 [地]	661 (-)	615 (-)	1,751	68	上伸
茨城 [地]	661 (639)	643 (629)	1,488	507	続伸
群馬 [地]	712 (682)	636 (553)	2,489	290	続伸
さいたま [中]	698 (667)	685 (645)	136	142	反発
東京 [中]	704 (642)	683 (627)	1,129	940	急伸
横浜 [中]	656 (632)	634 (618)	667	552	続伸
山梨 [地]	634 (662)	600 (599)	197	154	反落
浜松 [地]	608 (539)	552 (468)	338	30	上伸
名古屋 [中]	576 (581)	555 (554)	1,000	255	もちあい
京都 [中]	- (572)	- (525)	-	-	休市
大阪 [中]	509 (559)	467 (560)	83	62	急落
神戸 [中]	- (656)	- (637)	157	-	上場なし
岡山 [地]	555 (620)	574 (543)	301	354	暴落
広島 [中]	589 (530)	566 (478)	151	65	急騰
福岡 [中]	601 (595)	563 (561)	520	150	反発

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 1月1日~1月7日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 337,494 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,077	1,296	1,404	1,254	19,616
うで	702	748	810	752	44,758
ロース	1,026	1,101	1,230	1,121	38,500
ばら	1,109	1,350	1,447	1,313	47,633
もも	724	764	842	770	46,000
ヒレ	1,091	1,350	1,458	1,279	1,724
セット	886	998	1,026	981	139,263

◇近畿圏 総重量 270,053 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,296	1,350	1,404	1,355	21,934
うで	680	745	745	734	53,700
ロース	1,080	1,137	1,242	1,145	32,808
ばら	1,318	1,335	1,490	1,348	54,419
もも	691	729	788	731	71,138
ヒレ	1,112	1,296	1,355	1,272	3,892
セット	863	962	1,172	1,014	32,162

[食鳥正肉日経相場] 1月7日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	708	735	870	142
ムネ	372	402	509	133

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	726	783	1,030	10
ムネ	384	442	590	6

[農水省統計情報部食鳥市況] 1月7日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値					
安値	7日分は10日掲載				
平均					

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 470頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランクett判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、B5判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著  
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする

#### 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

#### 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

### ◆ステーションナリー

#### 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

## 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1

TEL 03(3663)2011 FAX 03(3663)2015

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995